

# 団地再生における 多世代コミュニティ形成の役割

藤岡泰寛（横浜国立大学）

2018年3月18日

## 1 自己紹介に替えて

スライド投影のみ

スライド投影のみ



造成中の団地



造成中の団地 昭和48年2月3日撮影



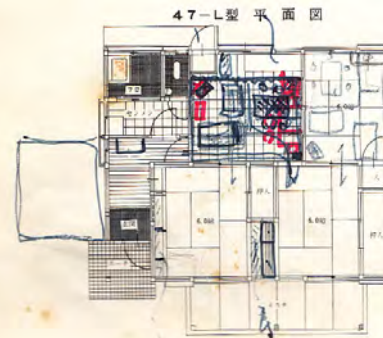
かつては  
郊外での  
暮らし＝  
「上り」

現代住宅双六  
(昭和48年、朝  
日新聞)  
上田篤



住宅金融公庫  
貸付分譲住宅  
(18年ローン)

3022



47-L型 平面図

47-L

床面積 64.56㎡  
(19.52坪)

17戸



47-L型 側面図



40年後の今



空き宅地・空き家の増加



駐車場化

農的空間化

## 2 ある団地の建替えて経験したこと



所在地	神奈川県茅ヶ崎市
敷地面積	23ha
用途地域	第一種中高層専用地域
高度地区規模	最大15m
総戸数	3,347戸
総住棟数	93棟
管理開始	1964年(昭和39年)

建替え期間(予定)  
2007年~2022年



写真：旧来街区住棟

写真：新規工区住棟

## 建て替えを通じて「縁側」(人とのつながり)と「池」(自然とのつながり)を取り戻したい

一、戦前の暮らし  
太平洋戦争(一九四一年二月八日~一九四五年九月二十日)が始まる頃、私は神奈川県の川崎大師で生まれ、小学二年生までそこで育った。  
三歳は、既に、長月大嬢、北に若宮神社、南に平田寺に囲まれた中であって、まわりには家が少なかったが、多くの住宅地、宇都宮が多かった。  
当時の住宅にはどの家にも縁側と土間のくろしがあった。池は防火用水として個人が建てたものであったが、おとなの顔が出るくらい、縁側は組んで仕切られており、顔を合わせることも、おとなの顔を交わすのが多かった。  
池のほとりには、縁側と呼ぶほど立派なものではなかったが、そこには、あまり背の高くない木が、二本植えられていた。  
半歩からは縁側は土間と通じ、木の裏の縁側は土間を感じ、半歩の差を感じていた。木のあふらした土間に、生活物の付着を避けて、自然と土れあうまじや、命の大切を学んだ。  
縁側は生活の場でもなかったし、まわりで外でもない、内と外の間仕切する場所として、たいへん重要な場所があったように思う。  
ふたつ、縁側は、いつでも心通じできる場所として、よく通じがわかれていた。  
縁側や池は、日常の中での情話や、やさしさを育んだ。

一、戦後の暮らし  
戦後の住宅事情に対して、住宅公団は十七万戸を建設してその解消に貢献し、立派な功績を残したが、住宅の集合によって「縁側」という風景もなくなり、まじやもなくなり、縁側ではないので、「縁側」の跡もなくなり、まじやもなくなり、縁側もなくなり、日本の建築家は、縁側の代替施設として「高層ビル」や「エレベーター」を提案するようになった。この代替施設は、人とのつながり、命の大切を学んだ「縁側」とは、全く異なるものであった。  
一方、そうした住宅は、個人住宅で美意識は、高い、という主張もあるが、それは、今や、我が国に於ける公団住宅十七万戸は全体の二割を占め、民間の集合住宅を押し返すことになるはずである。これは個人の私利私欲ではなく、国民の集合住宅を押し返すことになるはずである。これは個人の私利私欲ではなく、国民の集合住宅を押し返すことになるはずである。これは個人の私利私欲ではなく、国民の集合住宅を押し返すことになるはずである。

縁側と池のある暮らし

08・3・12

(浜見平・小林清恵)

茅ヶ崎市・浜見平団地住民Kさんの手記



昭和43年頃(写真:浜見平団地自治会提供)



# 期別建て替えに合わせて小さな集会室を



# 2005年

**浜見平団地再生支援研究会発足**  
 ↳ 日本大学 建築・地域共生デザイン研究室  
 ↳ 横浜国立大学 建築計画研究室

**浜見平団地自治会との協働ワークショップの開催**  
 → 団地住民・浜見平団地支援研究会・UR・茅ヶ崎市役所の4者で50回におよぶ建替えに関する課題を検討するWSの開催

# 2007年

団地再生のためのプラットフォームとしてのコミュニティカフェの提案

# 2010年

**コミュニティカフェの実験的運営**  
 → 新規工区での開催の事前準備として、2010年7月より自治会・支援研究会・住民ボランティアによる実験的運営開始

新規工区内に小さな集会室の設置案が実現

# 2011年

**新規工区でのコミュニティカフェ開催**  
 → 2011年より新規工区でのコミュニティカフェ活動を並行して開始

コミュニティカフェとしての活用を合意

住民自治+支援活動

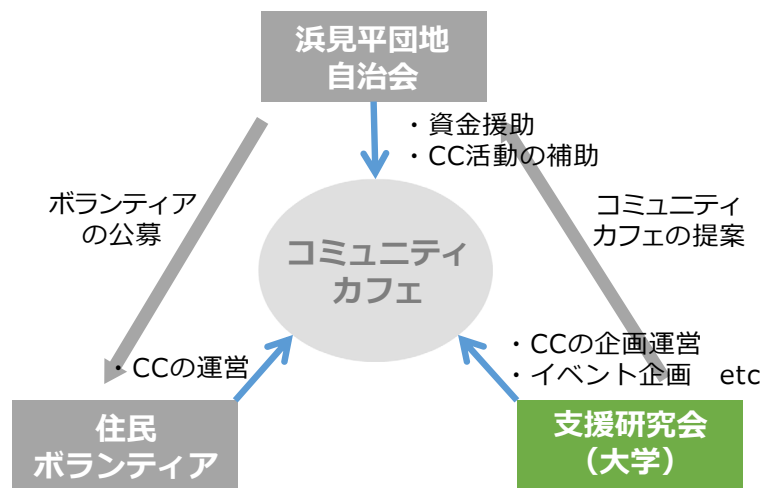
UR建替え事業

# 2住戸を集会室へ設計変更



茅ヶ崎市ホームページ  
 平成20年度第1回茅ヶ崎市景観まちづくり審議会  
 資料「浜見平団地(建替)1期景観計画」より引用

## 【コミュニティカフェの運営体制】



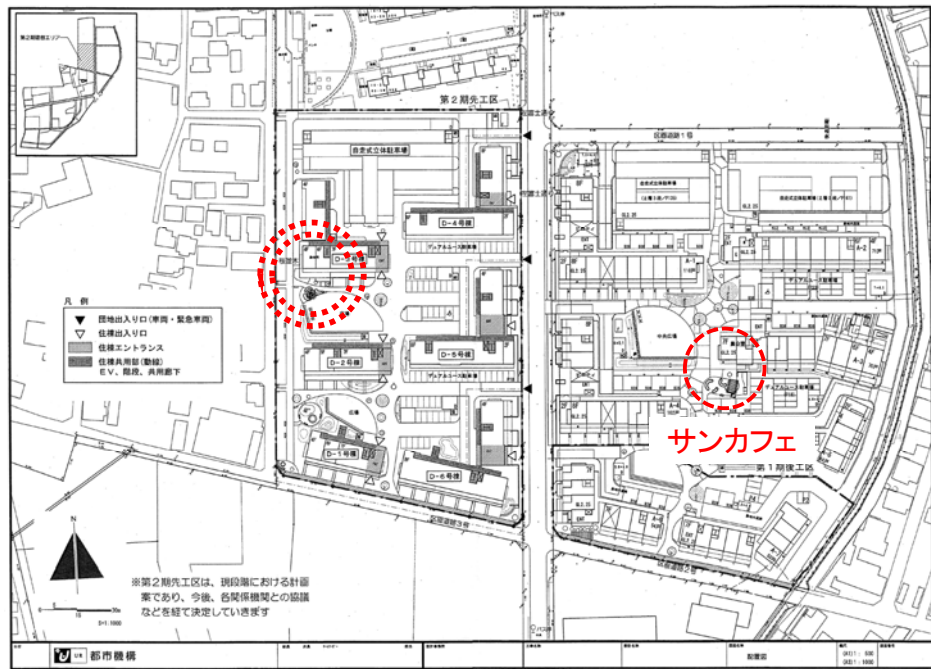
## 【コミュニティカフェ(2カ所)の概要】

●【アリエッタ】  
2010年7月より、コミュニティカフェの運営に関する課題の抽出を目的に実験的運営開始  
開催日：第2・4週火曜日  
開催場所：既存集会施設

★【サンカフェ】  
2011年6月より、アリエッタと並行して新規工区内での運営  
開催日：第1・3週金曜日  
開催場所：新規工区集会室

◆カフェの内容  
・コーヒー・紅茶等  
飲み物の提供  
・空間の提供

開催数：アリエッタ50回・サンカフェ30回の計80回  
参加者述べ人数：829人 (2012年12月11日現在)



## 浜見平ふれあいクラブかもめ

神奈川県「地域助け合い事業」に自治会として事業申請を行い、審査の結果承認  
主な活動内容  
■ ふれあいカフェ(アリエッタ・サンカフェ)  
■ カラオケ教室・健康麻雀教室・手芸 等の活動

スライド投影のみ

●かもめの近況  
✓ 会員数約70名(ほとんどが高齢者)で、新たな入会者が月に1、2名あり口コミで広まりつつある。  
✓ 団地外の会員も1割程度いる。自治会員の紹介であれば入会できる。

2012.4.19 カラオケ教室の様子



- かもめの成果・反響  
(以下、自治会報告書から抜粋)
- ✓ 定年後、家から出なかった人が教室に参加し、**家を出るようになった**と妻から感謝された。
- ✓ 昼から酒を飲んでウロウロしていた人。酒を飲んでくる人はお断りと入室させなかったが、**酒を断ち参加するようになった。**
- ✓ **手の震えがなくなった人がある。**
- ✓ 杖をついていた人が**杖なしで来れるようになった。**
- ✓ 参加者が早めに来て、いすなどの準備等を**手伝ってくれるようになった。**

スライド投影のみ

歴代の役満賞受賞者  
(1年間掲示)

スライド投影のみ

手芸教室のようす

## コミュニティガーデン・ファーム浜見平

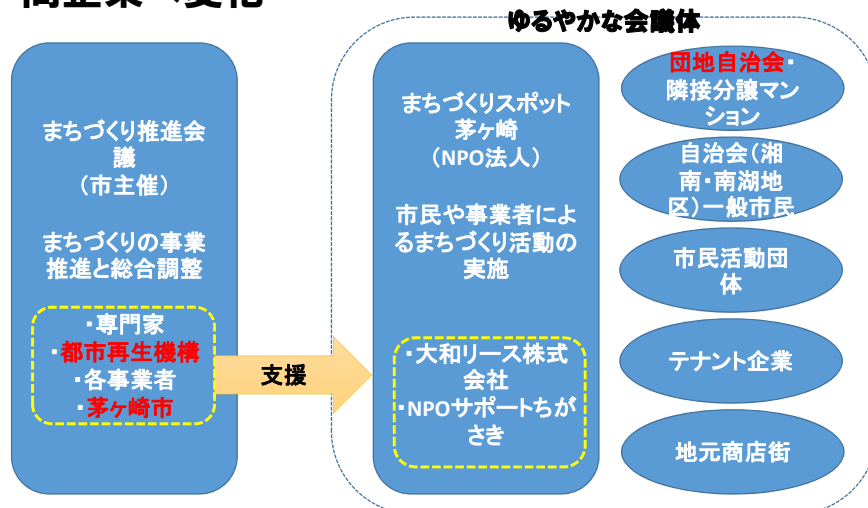


26年度から、**ガーデンの苗・土・肥料代をURが全額負担**(神奈川県32団地のうち選抜10団地のなかに浜見平団地が選ばれた)

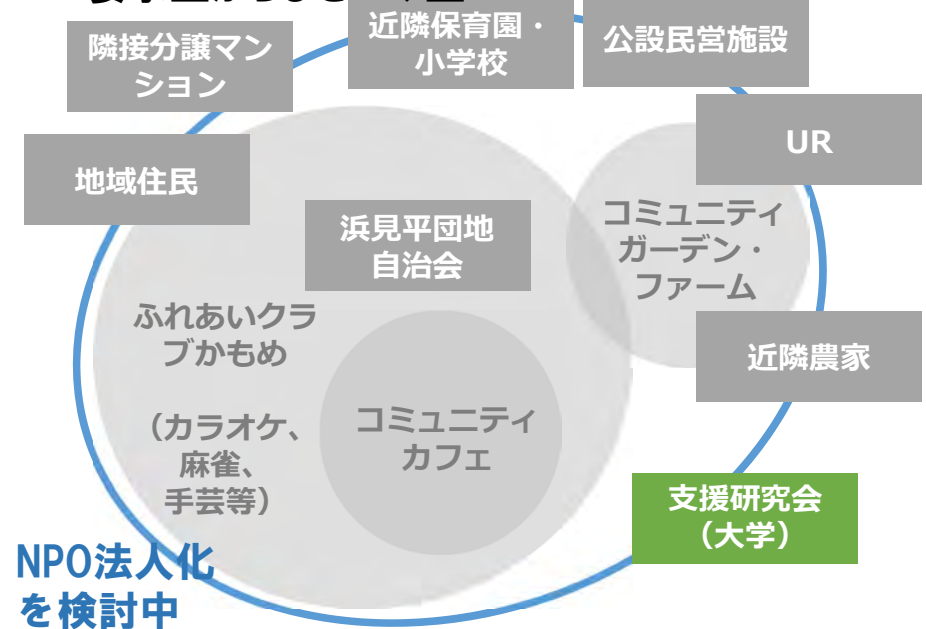
2年後に移住予定の農家から農地管理の相談→茅ヶ崎市農業水産課→大学に相談→ガーデングループを拡充し、**将来的に市民農園開設主体をつくることで三方合意**

### ■ 今後の課題

交渉・協働の相手が市・URから指定管理NPOや民間企業へ変化



### ■ 要求型からまきこみ型へ



### 3 多世代拠点をつくる 意味と可能性



スライド投影のみ

- 見守り交流サロン「いこい」  
月曜日～土曜日（日曜・祝日休み）10:00～17:00
- ミニ食堂  
定食：月・水～土曜日 11:30～13:30（木曜のみ13:00まで）  
モーニング：火曜日 7:30～売り切れ次第終了





お互いさまねっと  
安心センターで行う  
見守りとは？

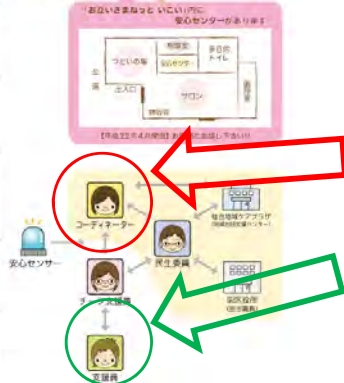


NPO法人  
お互いさまねっと公田  
町団地ウェブサイト  
より引用

1 公田町団地内の各エリアを担当する支援員が一人暮らし世帯等の見守りを定期的に行い、状況をチーフ支援員に連絡します。

2 支援が必要な場合は、チーフ支援員からの連絡を受けたコーディネーターが住居地域ケアプラザ（地域包括支援センター）や栄区役所等と連携できる体制をとります。

3 UR都市再生機構「見守り安心ネット公田町プロジェクト」が設置する安心センサーを活用した見守りを併せて実施しています。



「横浜市一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業」

常勤社会福祉士の人件費、非常勤の見守りの訪問員（住民雇用）の人件費等を支援（国庫補助による）



あおぞら市  
毎週火曜 10:30～  
「いこい」の前の広場で弁当、惣菜、野菜などを販売。  
希望者には自宅まで運搬支援。

みんなのヨガ（介護予防講座）  
水曜日 10:00～12:00

NPOお互いさまねっと公田町団地ホームページより引用



脳トレ麻雀教室  
木曜日 13:00～16:00  
指先や頭を使う健康麻雀  
「賭けない・吸わない・飲まない」

幼児教室（子育て支援）  
毎月1回（不定期開催）  
親子の交流の場

NPOお互いさまねっと公田町団地ホームページより引用

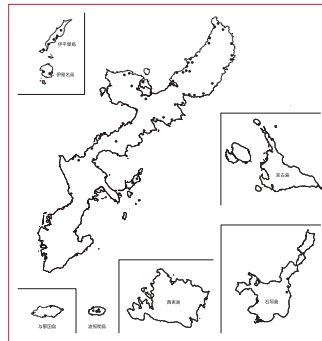
## 4 沖縄の共同店に学ぶ





■共同店の概要

・現存する共同店(2012-2013年)

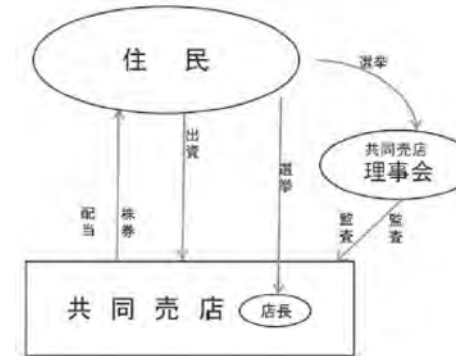


・集落と共同店の立地・・・国道からクラスター状に付属する集落内中心部に1店舗



■共同店の特徴

①共同売店の仕組み  
- 選挙制による主任の選定 -



②多岐に渡る事業内容

- ①共同購入
- ②共同出荷
- ③運輸
- ④精米
- ⑤酒造所
- ⑥信用事業
- ⑦バス運営
- ⑧保育園
- ⑨お風呂屋
- ⑩電話の取次
- ⑪有線放送
- ⑫ガソリンスタンド
- ⑬食堂
- ⑭理髪部
- ⑮コインランドリーなど

③掛売り(つまり、ツケ)



▲延売帳(売り掛け帳)

■共同店の特徴 ④見守り意識

▼ユンタク(おしゃべり)スペース

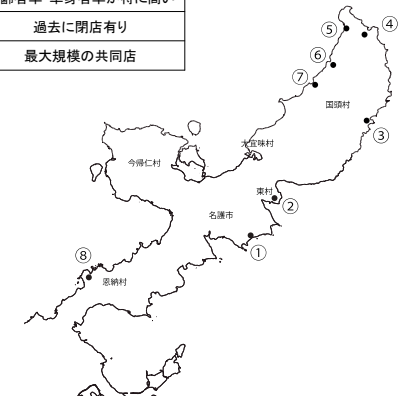


▼レジ付近に貼られた 惣菜やつまみを主任が作って提供する  
集落内住人の連絡先 ための炊事場



■共同店の調査方法・対象

共同店名	利用者層	特殊事業	※備考
① K共同店	部落内住人	配食	
② E共同売店	部落外住人(7割)		
③ A共同店	部落内住人とドライブ客	ガソリン	
④ O共同店	部落内住人	共同出荷・ガソリン	共同店発祥の地
⑤ I共同店	部落内住人		高齢者率・単身者率が特に高い
⑥ B共同店	部落内住人		高齢者率・単身者率が特に高い
⑦ Y共同店	部落内住人		過去に閉店有り
⑧ O共同組合売店	部落内住人(8割)		最大規模の共同店





■調査からみた共同店の存続条件

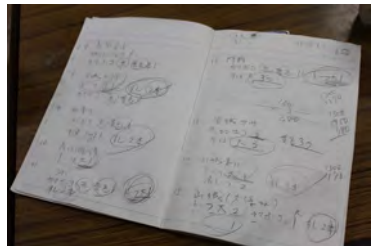
	共同店	E共同店	A共同店	O共同店	I共同店	M共同店	Y共同店	O共同売店
経営状態	黒字(ぎりぎり)	赤字(に数件連続)	赤字(ぎりぎり)	赤字(ぎりぎり)	赤字(ぎりぎり)	赤字(ぎりぎり)	赤字(ぎりぎり)	赤字(に数件連続)
運営形態	専任運営	専任運営	専任運営	専任運営	専任運営	専任運営	専任運営	専任運営
サービス	惣菜・惣菜・惣菜	惣菜・惣菜	惣菜・惣菜	惣菜・惣菜	惣菜・惣菜	惣菜・惣菜	惣菜・惣菜	惣菜・惣菜
仕入れ方法	業者買出し	業者買出し	業者買出し	業者買出し	業者買出し	業者買出し	業者買出し	業者買出し
スタッフ人数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人
夜間	閉店	閉店	閉店	閉店	閉店	閉店	閉店	閉店
客数	60人	70~100人	100人	100人	20~30人	20人	20~30人	400~500人
立地	駅前	駅前	駅前	駅前	駅前	駅前	駅前	駅前
大至スパーまで	車で28分(名護市内)	車で36分(名護市内)	車で37分(名護市内)	車で44分(名護市内)	車で63分(名護市内)	車で73分(名護市内)	車で91分(名護市内)	車で16分(うるま市内)
集落マップ								
集落人口	93	121	164	152	92	103	192	898
集落専任数	45	55	76	76	51	62	80	298
字内世帯集約率	100.0%	52.5%	82.0%	80.5%	55.5%	60.5%	88.0%	66.0%
人口	93	180	168	175	126	138	226	2308
集約率	45	55	76	76	51	62	80	298
高齢率	39%	32%	30%	41%	25%	25%	25%	18%
専任数	45	55	76	76	51	62	80	298
調査からみた	業者委託あり	業者委託あり	業者委託あり	業者委託あり	業者委託あり	業者委託あり	業者委託あり	業者委託あり
集約率	100%	52.5%	82.0%	80.5%	55.5%	60.5%	88.0%	66.0%
補注					20年前に半年閉鎖	20年前に半年閉鎖	20年前に半年閉鎖	最大規模の共同店

商品の仕入れが ... 業者委託の割合が多い → 赤字の傾向  
 住民による買出しで補う → 黒字の傾向

■調査からみた共同店の存続条件 -母体規模-

住民による運営可能な規模

実質“御用聞き”を行っているため、  
 大きすぎず適度な世帯規模が必要



要望のあった商品の買い出しリスト

地縁が構築できる規模

共同店を通じて見守り意識を高めるには  
 地縁関係に応じた商圏も重要



あまり活用されず、比較的小規模なユニタスペース

# 5 郊外は本当に衰退しているのか

### 近居割

NEIGHBOUR DISCOUNT

**近居割**  
二世帯が近くで暮らす「近居」。新たにご入居し近居すると、お家賃が5年間最大20%引きとなります。

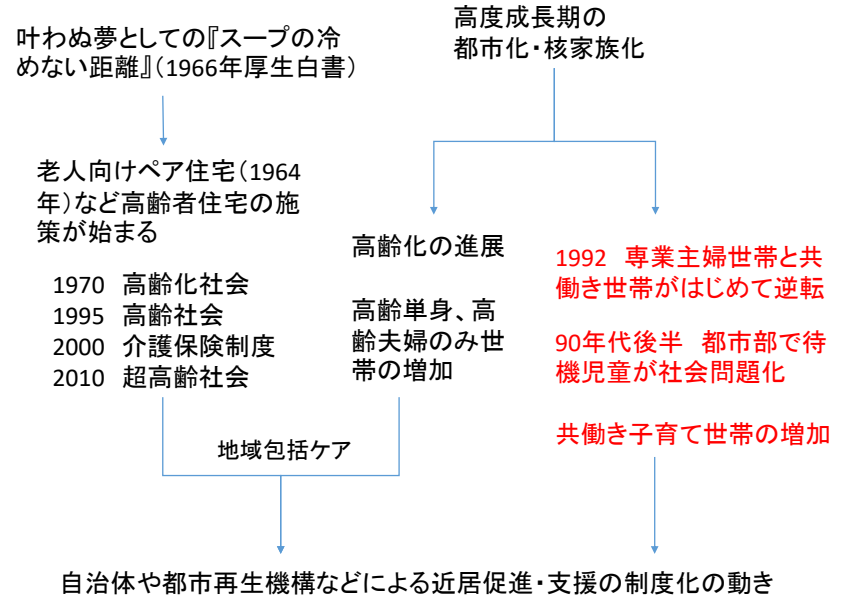
### U35割

AGE 35 & UNDER DISCOUNT

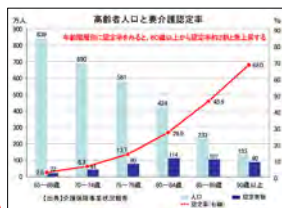
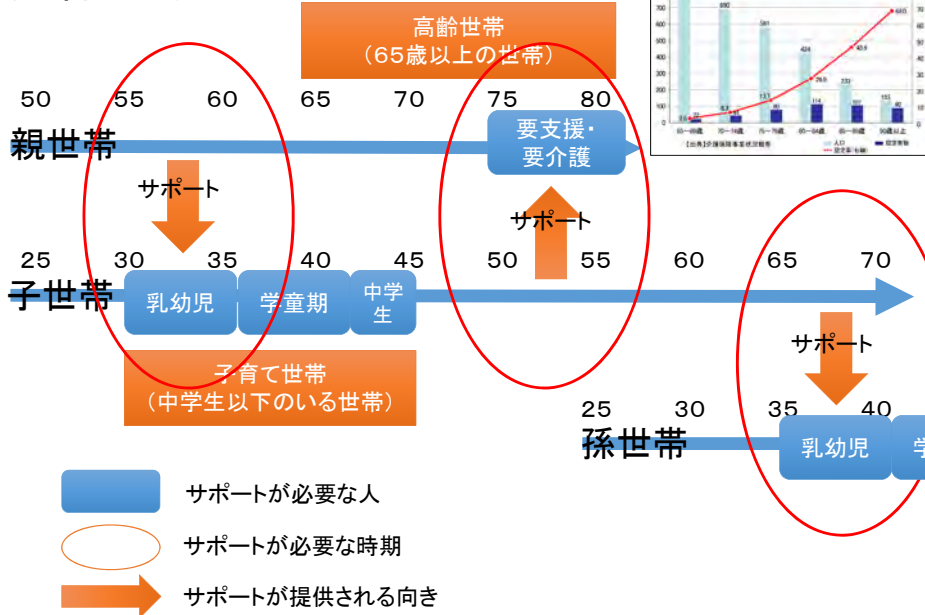
**U35割**  
35歳以下の方限定。3年間の定期借家契約で、契約の更新が無い代わりに通常よりお家賃が抑えられます。

独立行政法人都市再生機構ウェブサイトより引用

## 近居への着目



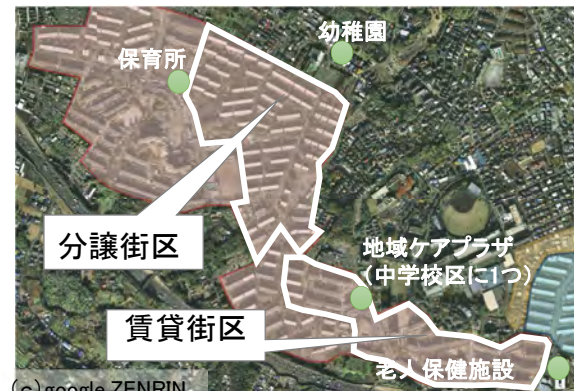
# 近居のメリット



# 調査方法

**アンケート調査**  
 賃貸街区: 2011年10月実施 / 配布1570回収824(回収率53%)  
 分譲街区: 2013年10月実施 / 配布1200回収792(回収率66%)

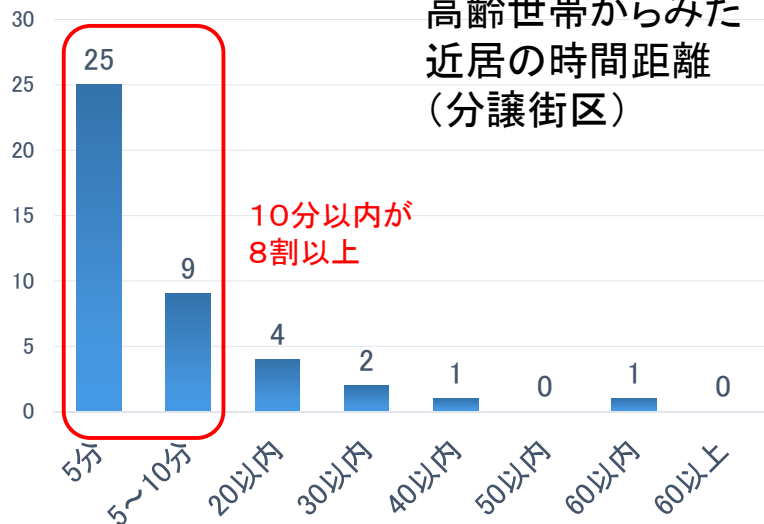
**ヒアリング調査**  
 分譲街区: 2014年6月実施 / 親世帯7+子世帯6、うち血縁親子世帯は2世帯)



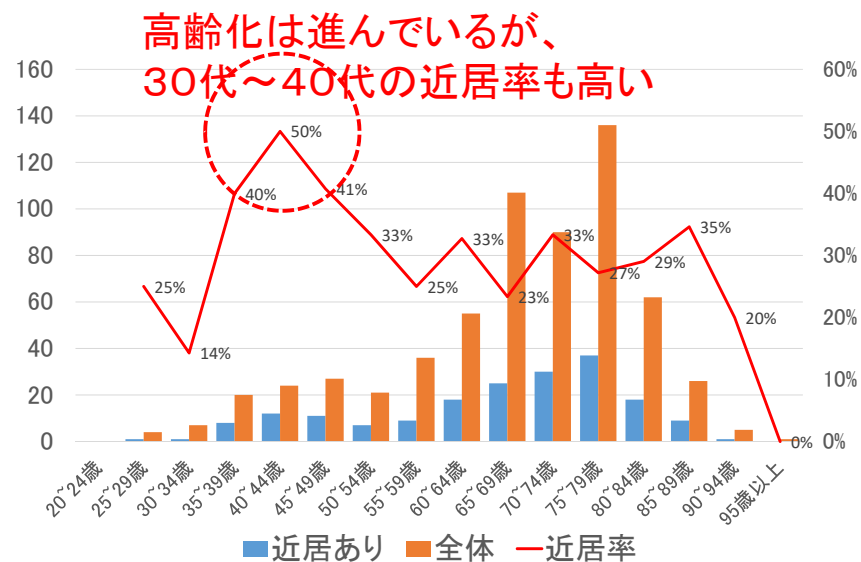
(c) google, ZENRIN

対象地区	入居年	住棟	区分	世帯数	近隣施設
左近山団地	1968年	1~9街区 203号棟	1~6街区:分譲 7~9街区:賃貸	4789世帯	小学校、中学校、幼稚園、保育園、診療所、スーパー、団地内商店街、郵便局、銀行、スポーツセンター、地域ケアプラザ、地区センター
市沢団地	1970年4月	13棟	分譲	370世帯	
市沢住宅	1970年	-	戸建て	100世帯	

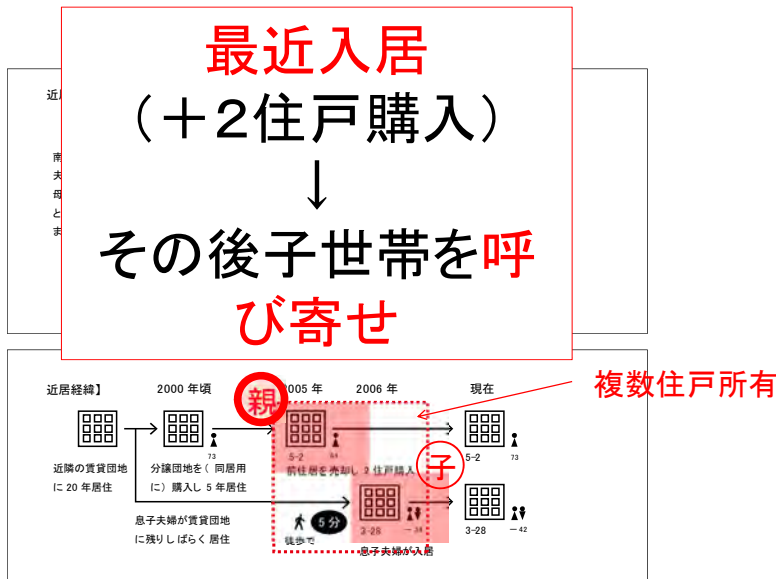
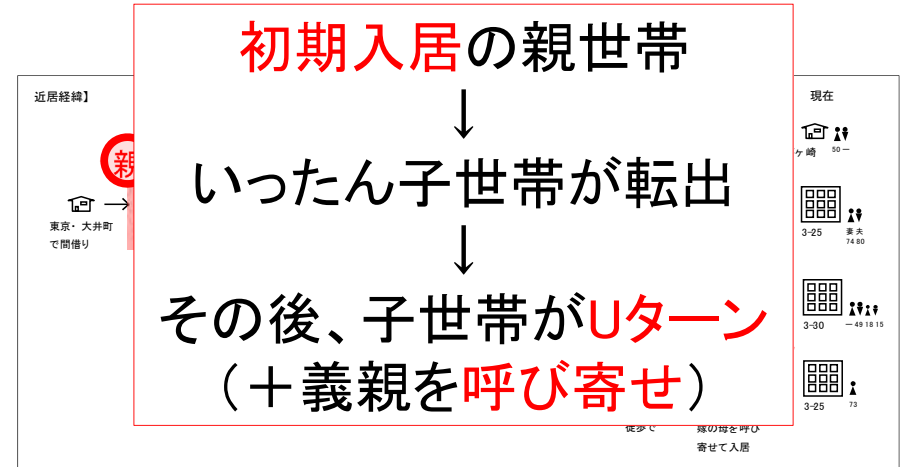
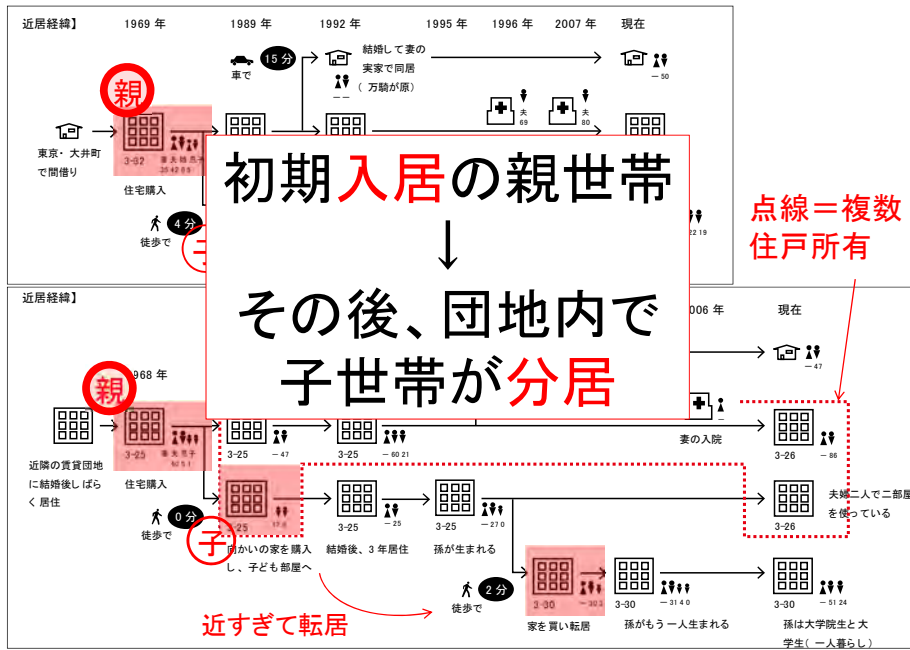
# 高齢世帯からみた近居の時間距離 (分譲街区)



# 年齢別にみた親族近居率 (分譲街区)





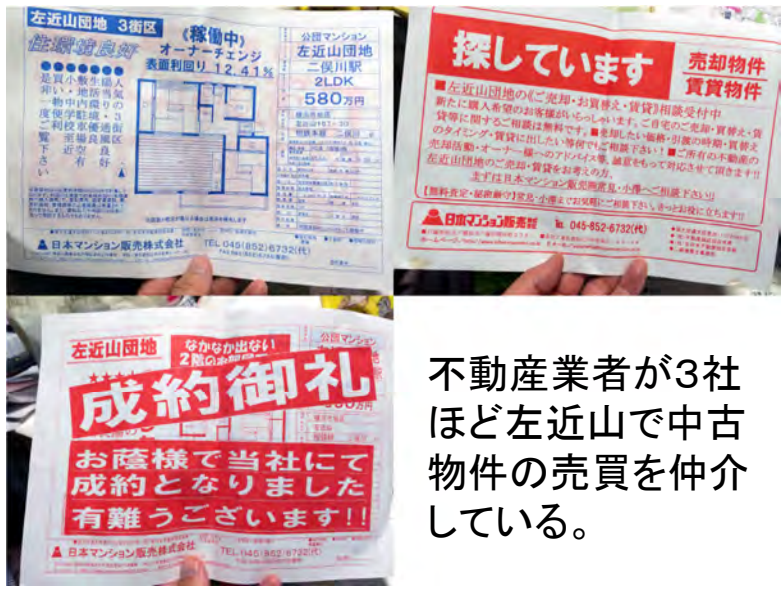


### ある高齢夫婦と子世帯の近居例 (病気を機に、子どもの近くに転居)



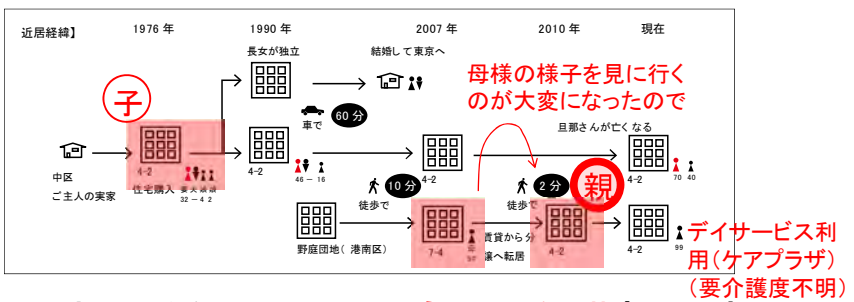
- 孫(大学生)がパソコンやテレビをすぐ治しにきてくれる
- お米や甘いものをもらいにいたりする
- 電話するとすぐに来てくれる
- 娘家族のところ(東戸塚)にも何かのつでによく立ち寄る。

「歳をとったら子どもの近くが何かとよい」

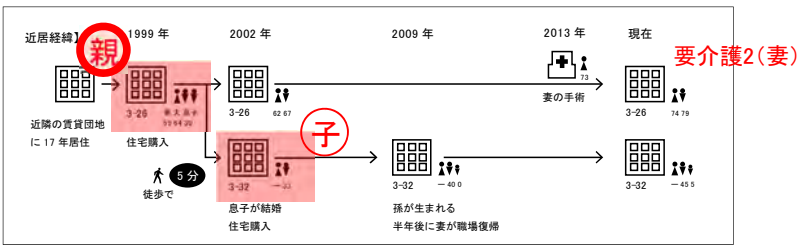


不動産業者が3社ほど左近山で中古物件の売買を仲介している。

### 階下に親を呼び寄せ介護(老々介護)



### 毎週末、孫を預かる(3食)要介護親世帯

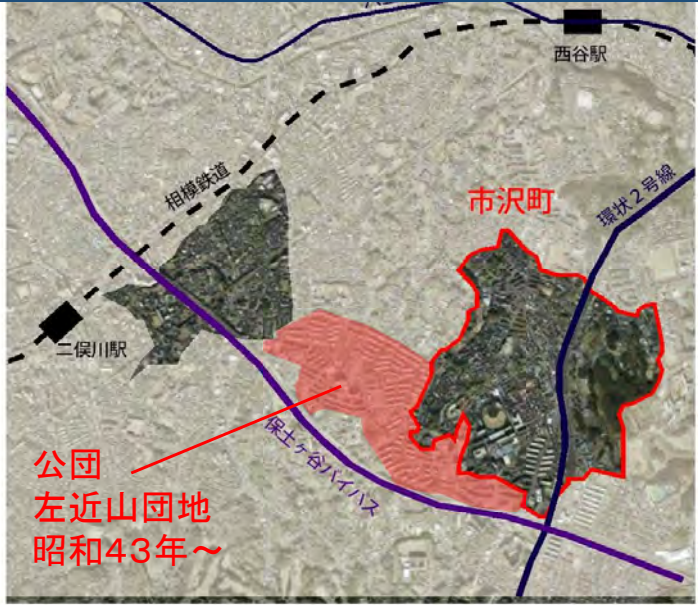


- 子育て世帯の近居ニーズはある
- 徒歩圏の近居ニーズがある
- 親世帯による複数住戸所有の傾向がみられる (子世帯への経済的支援に近い)
- しかし、血縁関係で閉じると、育児と介護の重複リスクがのこる



地域で支え合うためにどうしたらよいか

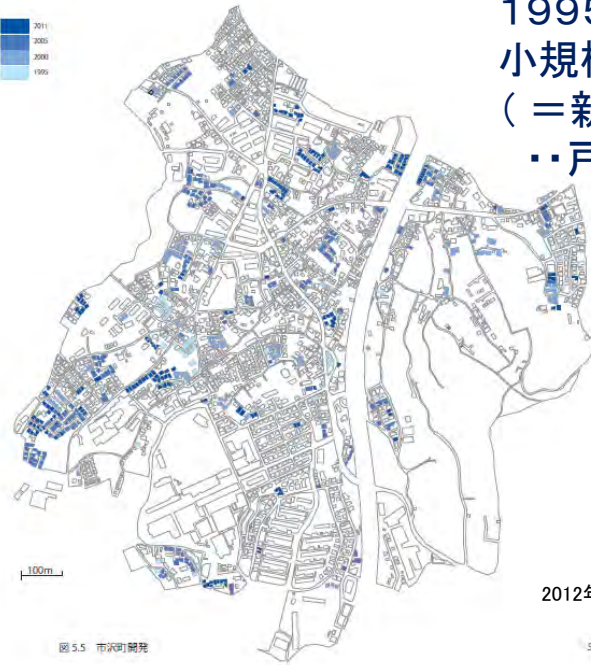
## 6 団地周辺の地域







1995年～2011年  
小規模な宅地開発  
(=新築購入)  
・戸建てについて

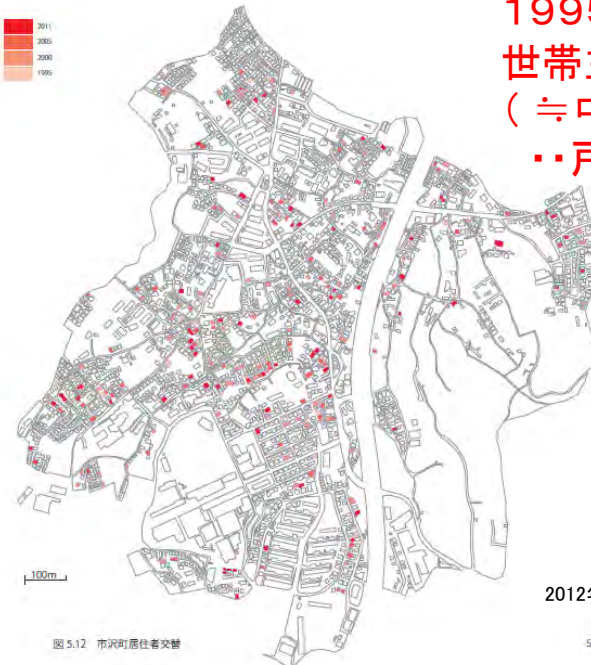


2012年度修士論文(西田周平)より

図 5.5 市況町開発

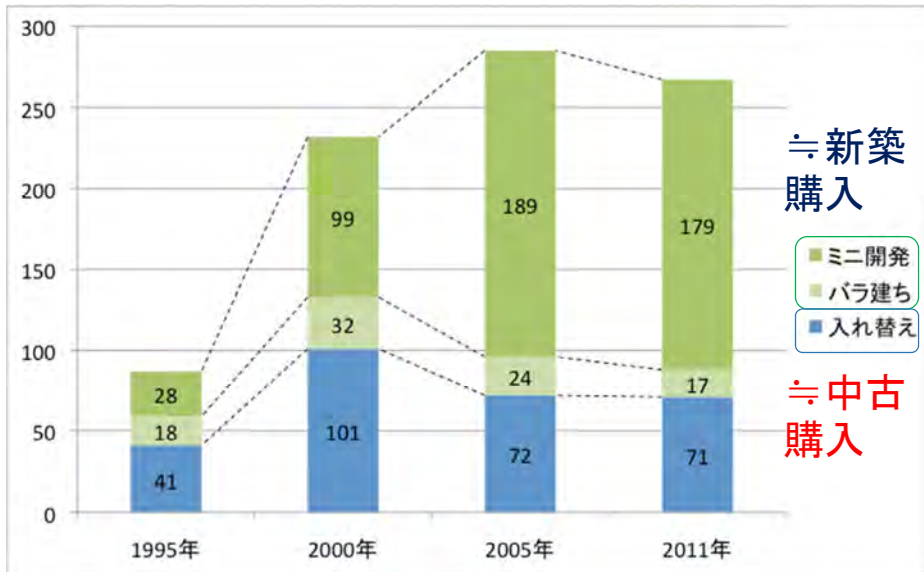


1995年～2011年  
世帯主の入れ替わり  
(≒中古購入)  
・戸建てについて



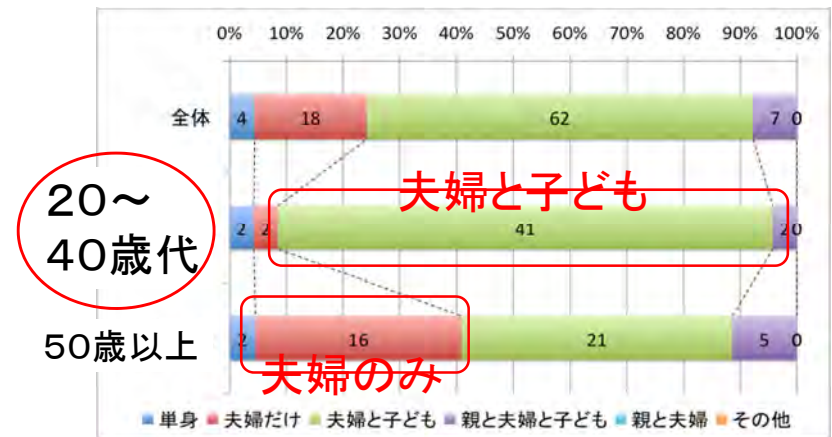
2012年度修士論文(西田周平)より

図 5.12 市況町居住者交替

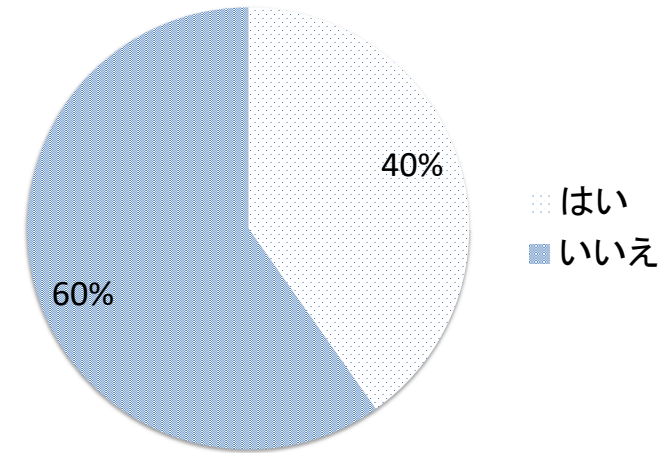
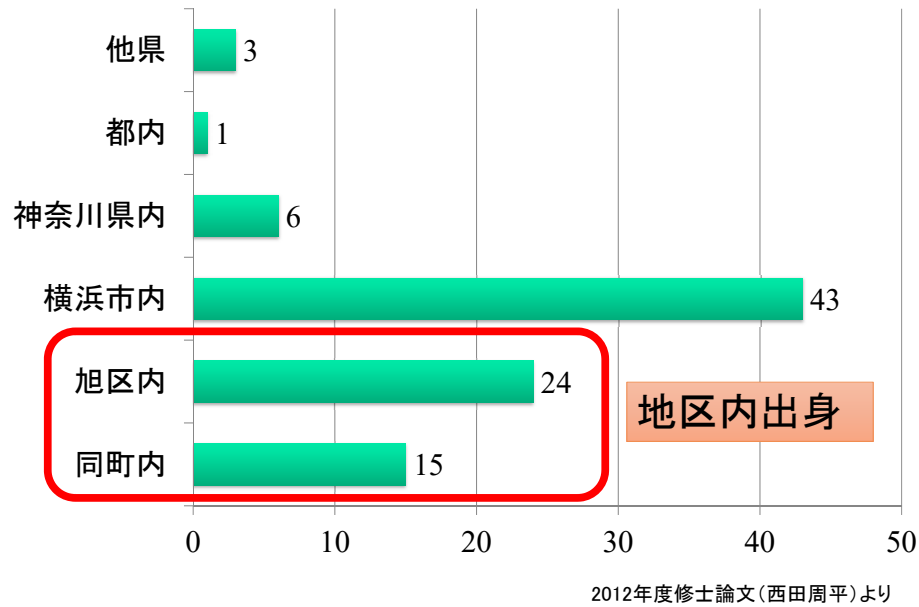


2012年度修士論文(西田周平)より

(3) 年齢層別世帯構成

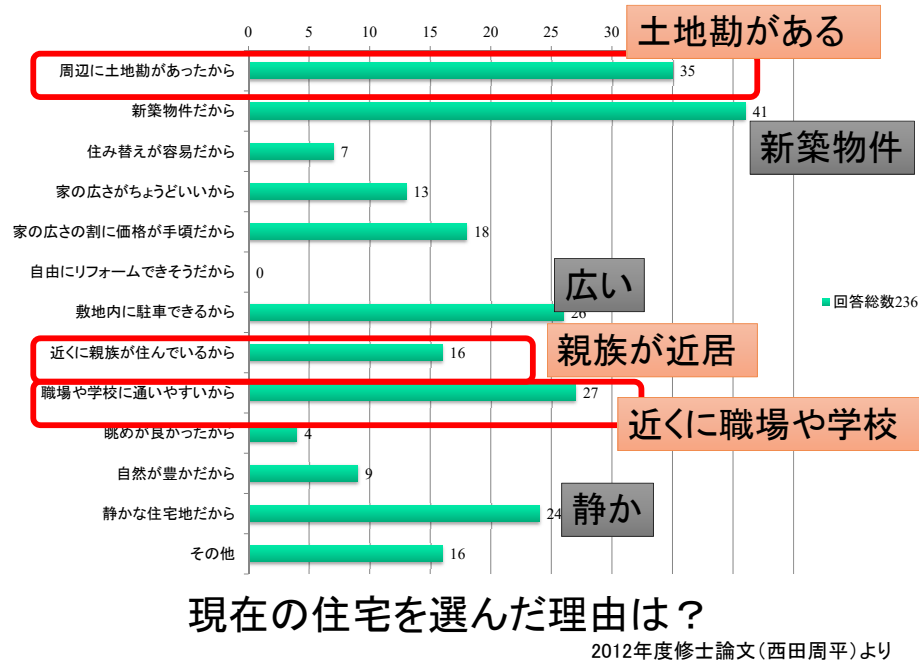


2012年度修士論文(西田周平)より



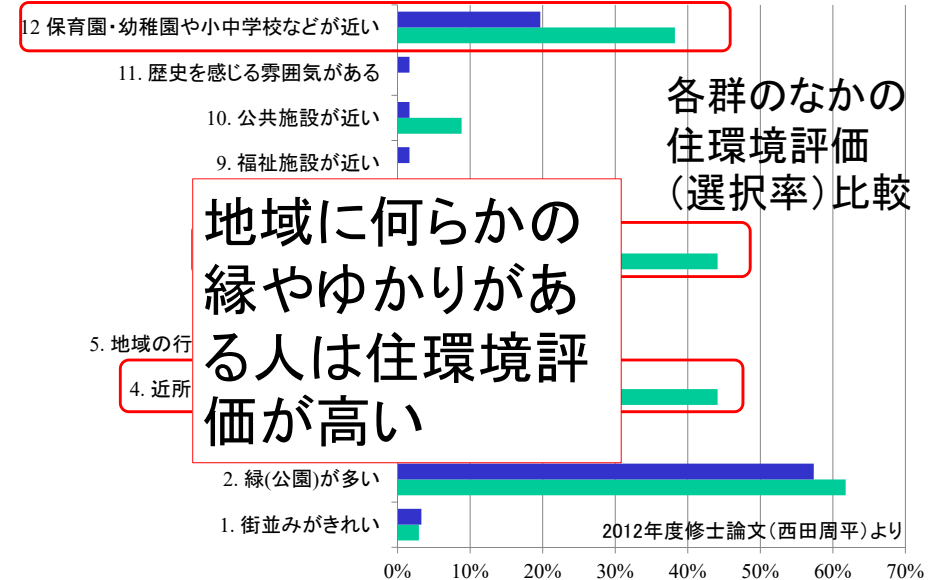
### 近隣に親族が居住していますか？

2012年度修士論文(西田周平)より



### 現在の住宅を選んだ理由は？

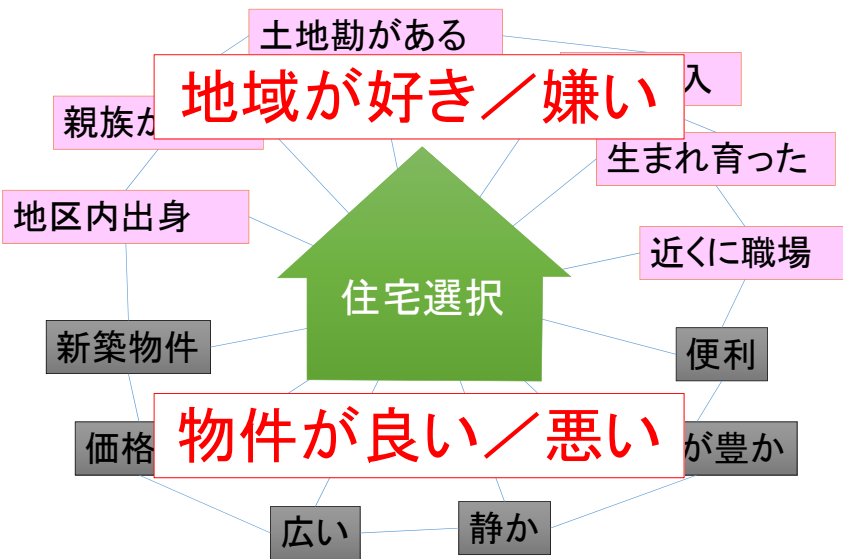
2012年度修士論文(西田周平)より



上: 親族近居がなく、かつ、土地勘がない群  
 下: 親族近居があり、かつ、土地勘もある群



# 何らかの縁やゆかり・巡りあわせのマネジメント



# 7 若者を受け入れてみる

## 学生居住 (U25?)

平成 29 年 3 月 31 日  
国立大学法人横浜国立大学  
独立行政法人都市再生機構  
横浜市 旭 区



### 横浜国立大学とUR都市機構、横浜市旭区による「左近山団地における大学生による地域支援活動事業に係る連携協定」の締結について

国立大学法人横浜国立大学（以下「横浜国立大学」という。）、独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」という。）及び横浜市旭区（以下「旭区」という。）は、「左近山団地における大学生による地域支援活動事業に係る連携協定」を平成29年3月31日に締結しました。

1 背景と目的  
旭区内にある左近山地区は、昭和40年代前半に開発された集合住宅団地で、高齢化率が40%を超えています（65歳以上、平成29年5月末日現在）。こうした高齢化に伴い、地域活動の担い手不足が生じているほか、高齢者等への日常生活支援の必要性もますます高まっている状況となっています。

そこで、横浜国立大学、UR都市機構及び旭区は、地域活動の担い手確保、団地の再生を図ることを目的として、まちづくりや地域福祉等を学ぶ横浜国立大学の学生が旭区内のUR賃貸住宅に居住しながら地域活動に参加することにより生活支援の推進、地域コミュニティの活性化に取り組むモデル事業（以下「本事業」という。）を連携及び協力を図り、三者により連携協定を締結することとしました。

2 連携及び協力の範囲  
・本事業に参加する学生（以下「参加学生」という。）の募集に関する事項  
・参加学生が居住する住宅に関する事項  
・参加学生及び参加学生が参加する地域活動への支援及び助言に関する事項  
・本事業を円滑に推進するための情報・意見交換の実施に関する事項  
・本事業の成果の共有及び公表に関する事項  
・その他、本事業の目的の達成のために必要な事項

3 締結日  
平成29年3月31日



## 左近山団地における学生居住実態から 2017年度卒業論文(石川花微)より

### ■入居の動機及び入居前後での暮らしの変化

#### 第3章

##### ▼応募した理由

1.家賃が安いから	●	●	●	●
2.居住スペースが広い	●	●	●	●
3.以前住んでいた家よりも学校に近い	●	●		
4.家族と離れたかった	●			
5.地域活動に参加したかった	●	●		
6.地域支援活動モデル事業に共感した	●			●
7.就職活動に役立つと思った				

入居初期段階における魅力は家賃、居住スペースの広さ

##### ▼入居前後での暮らしの変化

	学生A	学生B	学生C	学生D
居住形態	前 四人家族 後 単身居住	前 シェアハウス 後 2人シェアハウス	前 単身居住 後 単身居住	前 単身居住 後 単身居住
家賃	前 実家暮らし 後 29,610円	前 0円 後 4,000円	前 10,000円 後 3,995円	前 40,000円 後 29,800円
通学時間	前 40分 後 10~15分	学生全員が入居前後で家賃、通学時間いずれかにおいて負担が軽減している		
通学交通	前 0円	前 500円	前 0円	前 0円

## 左近山団地における学生居住実態から 2017年度卒業論文(石川花微)より

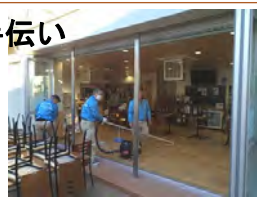
### ■学生のある1週間のスケジュール

#### 第3章



## ■左近山での生活

- 週1度(2~3h) ほんとさこんやまでのお手伝い
- 相鉄ローゼンでの日用品の買い物
- 左近山でのイベント(商店街での祭り)
- 趣味 etc...



61

## ■シェアの生活について

### ■料理・・・お互いの趣味である料理のシェア



### ■リビング・・・個室を広く使うための工夫



・部屋に置くとかさ張るもの(本など)はシェアする

・お互いの部屋を行き来する必要も減る

62



わたしたちが活動しています

**横浜国立大学 神奈川県**  
**大学生が団地に住み 多世代交流の懸け橋に**

地域のコミュニティの活動を担う若者が不足しつつある左近山団地で、横浜国立大学と横浜市旭区、URが連携し地域支援活動を開始。昨年9月以降、4人の学生が左近山団地に住み、地域の子どもたちへの学習支援や、NPO法人の活動拠点「ほんとさこんやま」のサポートのほか、商店街で行う月1回のイベントにも積極的に参加しています。「ほんとさこんやま」のボランティアスタッフや住民の方からは、「若い人がいると団地の雰囲気明るくなる」「孫と一緒にいるようで楽し」と、好意的な意見が多く、活動への期待の声もありました。

学生たちの目標は、まずは、居住者の目線から団地の環境を知り、いろんな声を聞くこと。そして、団地に住む多くの人々が繋がるコミュニティづくりのためのアイデアを提案し、多世代が交流できる快適な環境を目指した活動を進めています。

**小山 晴也さん**  
 (旭区立東原小学校教員) (旭区立東原小学校教員)

学習支援の「まくら教室」や「ほんとさこんやま」のサポートからコミュニティの大切さを学び、価値観が変わりました。左近山団地は自治会が整っていて、環境学の面でも勉強になります。また、大学生の一人暮らしにはありえない広さの住居は快適で、空っぽに活用しています。

(1) 団地に住む若者が気軽に集えるようボランティアがカフェを運営「ほんとさこんやま」スタッフの皆さん、左から、武井さん、小山晴也さん、旭区立東原小学校の皆さん、小山さん、社会福祉協議会会長の横山さん  
 (2) 自分の趣味を活かした空間づくりは、建築系の学生ならではの  
 (3) 団地で暮らす生活の様子  
 (4) 商店街で行われるイベントにも参加

URコミュニティペーパーによる紹介(2018年2月号)

## ■入居後の変化

### ■入居前

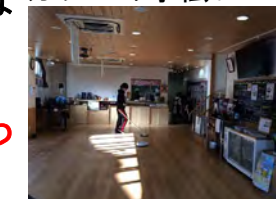
- 高齢者が多い
- 商店街の人たちとの関わりがない

### ■入居後

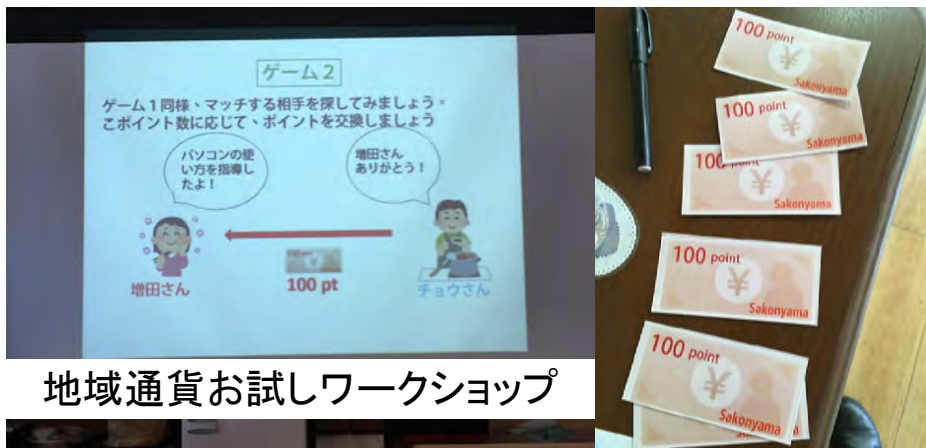
- 多いが、元気な人も多い
- 同世代の人も少ないがいる
- イベントなどを通じて商店街の人と仲良くなれた

- 入居すれば地域住民との関わりは徐々に深くなるが、**既存イベントへの(受け身的)参加が主**
- **生活時間帯が異なる人たちと関わる機会や場所がない**

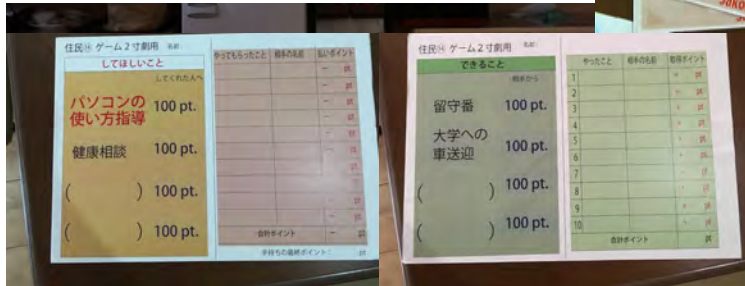
例) コミュニティカフェの手伝い





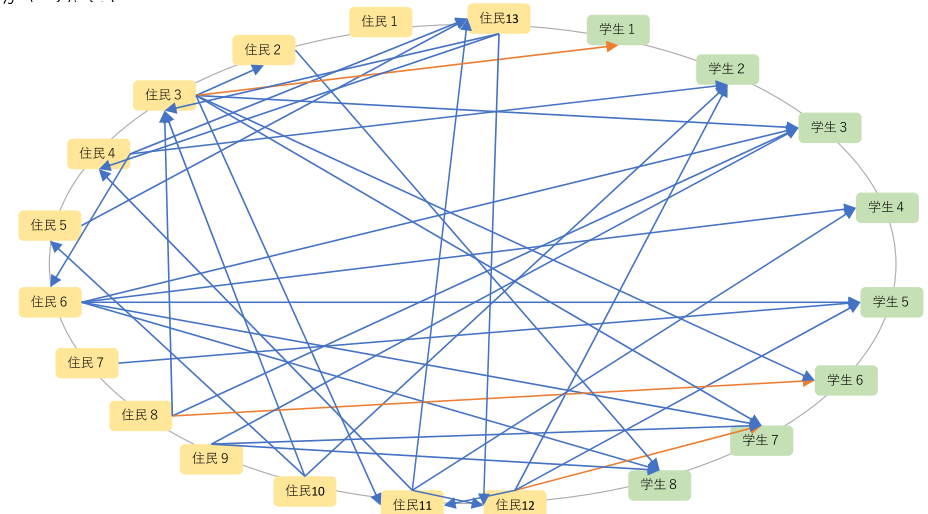


## 地域通貨お試しワークショップ



「してほしいこと」と「できること」の交換

がやったこと



住民→学生 だけでなく  
学生→住民、住民→住民、学生→学生などの  
多様な交換を促進 = 多世代交流の活性化

## 8 生涯現役のまちを目指す

スライド投影のみ

## 団地には多種多彩な人材がいる

(左近山団地789街区アンケート調査結果より)

- パソコン等のIT関連の資格(17)
- 法律関連の資格(6)
- 会計関連の資格(16)
- 建築・不動産関連の資格(20)
- 介護・福祉関連の資格(39)
- 語学・国際関連の資格(15)
- 看護・医療関連の資格(14)
- 電気・機械関連の資格(24)
- 調理・衛生・飲食関連の資格(28)
- 教育関連の資格(22)
- その他の資格(47)

情報処理、工事担任者、電気主任技術者、衛生管理士、自動車検査員、ラケットストリンガー、ヘルパー2級、看護師、ケアマネージャー、精神障害者ヘルパー、幼稚園保育母、手芸、防災関係資格、スポーツ関係、パソコン会計、不動産、溶接、保育士、幼稚園教師、防火管理者、整備士、溶接士、クリーニング、日本語教師、茶道教授、消防設備士、調理師、中国語検定2級、英検定2級、漢検b級、理科教師、介護ボランティア2級、整備、総合旅行業務取扱管理者、茶道などなど・・・。



NPOちば地域再生リサーチ  
海浜ニュータウン地区の例  
香西さんは畳職人、ホームセンターのアドバイザーなどを務めた内装全般のベテラン。2003年1月に交通事故で腰を痛め、やむなく仕事をやめていた。「また、働かせてもらえるなんて幸せだよ」と笑顔を見せた。(読売新聞2005.1.1)



商店街の空き店舗を活用したDIY拠点

